

1 事業総括

今年度は、82世帯が入所し、入所目標80世帯を2世帯（5%）上回り、前年比、79世帯の入所実績に対して3世帯（8%）の増となった。入所者の特性では、暴力逃避（21世帯）・立ち退き（19世帯）・離婚遺棄、親族不和、自立生活困難（各8世帯）等の理由が多かった。一方、退所は77世帯あり、そのうち58世帯（75.0%）が居宅移管により退所した。

施設予算の収支では、公金取扱いの責任を持ち、事業の目的や用途に応じて市場の価格を調べ、適切且つ公平、計画的に、施設運営に必要な予算を執行した。また、予算は、専門の会計システムで一元管理し、毎月、本部に会計報告を行ない、法人本部も含めて収支予算の管理を行った。

利用者支援では、利用者の希望と主体性を尊重し、福祉事務所の方針に基づき実施した。また、当施設の理念である「明るく・笑顔・丁寧」を掲げ、親切且つ丁寧に利用者に関わり、利用者本位の支援を実践し、関係機関とも、随時、必要な情報を交換し合い連携を図った。第三者評価の利用者調査では、18世帯中15世帯が「満足（13世帯）」「やや満足（2世帯）」83.0%の高い評価を得た。

地域関係は、堀切南町会主催「桜まつり（4月）」では、会場設営や模擬店の準備、販売等を職員が手伝い、施設主催「ショウブまつり（6月）」では地域やOBを含め198人が参加し「演芸会：ヴァイオリン&チェロ演奏（3月）」でも、地域やOBが14人参加して積極的な交流を行った。

当施設は、町会と災害時応援協定を締結しており、水害等の災害時は、避難先として住民に施設を提供するため、普段から、地域ネットワーク図っており、今年度も、関係が良好に継続できた。

施設管理では、増圧給水設備点検（年1回）・防虫消毒（年2回）・退所後の居室清掃、修繕や整備を随時行い、居室の住環境の整備を推進するとともに、施設の建物管理にも取り組んだ。

人材育成では、多種多様な利用者の支援に向けて、適切かつ柔軟に対応できる職員の育成を目標にし、研修計画に基づき、施設運営・利用者支援等に必要研修へ参加の機会を提供した。

〔利用実績〕

（単位：世帯）

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	82	6	10	6	7	9	10	4	5	4	2	7	12
退所世帯数	77	5	7	7	5	8	5	8	4	17	2	5	4
月末在籍世帯数	平均 22.0	20	23	22	24	25	30	26	27	14	14	16	24
28年度	平均 27.8	33	31	28	27	30	26	29	33	26	29	23	19

〔退所理由〕

（単位：世帯）

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
29年度	0	0	58	3	8	0	1	0	7	0	0	0	77
28年度	0	0	63	2	10	4	3	0	2	0	0	0	84

2 主要目標に対する成果

(1) 利用者の安心・安全に配慮した施設運営を実施する。

毎朝の安否確認、随時の利用者対応を行ない、目配りや気配りをした施設運営を実践した。

(2) 実施機関との連携を持ち、利用率向上を推進する。

実施機関と連携して利用者の支援を実践した。利用率は、目標人数から5%増となった。

(3) 利用者の個別状況を的確に把握した支援を行い、利用目的の達成を推進する。

入所時をはじめ、随時、必要な個別情報を利用者や実施機関に確認して、利用者の状況を把握し、施設の利用目的の達成及び社会復帰に向けた支援を推進した。

(4) 随時、速やかに居室整備を行い、即時の利用依頼に応じられる体制を推進する。

退所した後、速やかに居室の清掃並びに整備及び修繕を行い、即時の入所依頼に応えた。

(5) 地元町会等との交流を促進した地域福祉の実践及び強化を行なう。

日々の住民との挨拶や対応、行事の参加交流、多目的室の貸出等を通して交流を行った。

### 3 運営管理

- ・利用者支援では、利用者ニーズに応えるため、バックアップセンターの各種相談・施設独自事業のカウンセリング、利用者支援手引きを活用し、利用者の主体性を尊重した個別支援を実施した。
- ・毎朝の安否確認では、利用者の生活状況等の把握に加え、心身の変化・居室内の衛生状態の確認・疾病の発見や早期対応に尽力し、利用者自身が気づかない・話さない問題等にも速やかに察して対応し、自立支援の促進、事故等の防止に力をいれた。また、職員が不在となる夜間や休日の施設管理状況、利用者の動向等は、管理人の申送りを受けて掌握し、随時、必要な対応をした。
- ・当施設の理念「明るく・笑顔・丁寧」を支援の場面で職員が実践し、利用者が親しみやすい温かみのある関係を作り、利用者の人格尊重、権利擁護・個人情報保護に配慮した支援をした。
- ・DV被害者をはじめ、対応が必要な利用者には、関係機関との連携は勿論のこと、本人へのこまめな声かけや面接の機会を増やし、心身状態を把握して意思疎通を図って信頼関係を作った。
- ・利用者に「暮らしのアンケート（22世帯・86.0%回答）、居室アンケート（30世帯・63.0%回答）、福祉事務所には「葛飾荘ご利用後のアンケート調査」を行い、利用者のニーズ把握に努めた。
- ・施設行事は、懇談会やショウブまつりをはじめ、多くの行事を行い、利用者との親睦を図った。
- ・防災訓練（6回）は、本田消防署の指導訓練や防災館体験ツアーを取入れて訓練を行った。
- ・引継（毎朝）職員会議（6回）支援会議（12回）を行い施設運営や利用支援の課題解決等を行った。
- ・地元町会とともに「葛飾区総合防災訓練」に利用者と一緒に参加し、地域の防災活動に貢献した。

### 4 保健衛生・環境整備

- ・バックアップセンター保健栄養相談（23回）を行い、利用者の生活改善への助言を行ない、バックアップセンター発行「けんこう通信」を利用者全員に配布し、健康に役立つ情報を発信した。
- ・防虫消毒（2回）・防災自主点検（毎日）・施設内外清掃（週4回及び随時）・ゴミの分別収集の徹底と地元区の資源回収事業の協力を行い、施設の安全管理や利用者の生活環境の維持に努めた。
- ・常時、施設に防犯カメラを設置し、不審者の対策を強化し、利用者に安全・安心を提供した。
- ・道路に面した2ヶ所のゴミステーションを管理し、地域の美化、施設内の衛生管理を実施した。

### 5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ・地元の諸団体（小中学校PTA・子ども会等）に施設の多目的室を貸出して、地域交流の促進・住民サービスの推進を行い、地域住民と交流をした（39回）。
- ・綾南小学校PTA「ひまわり110番」の活動に協力し、玄関に「こどもひまわり110」の標示プレートを継続設置し、この活動の趣旨である「犯罪発生の抑止力」「児童が犯罪に巻き込まれることを未然に防止」の活動を行い、子どもの安全を守る協力をした（通年）。
- ・平成21年度より、地元の堀切南町会と災害時応援協定を締結しており、今年度も継続ができた。

### 6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 NPOサービス評価機構 実施期間：H29.6.21～H30.2.9

全体の講評：

#### 特に良いと思う点

- ① 今年度より「葛飾荘お仕事なんでも相談会」を開始し、より仕事に関する相談がしやすい環境をつくっている。
- ② アンケートや利用者懇談会を通じて、利用者の意見や要望を改善につなげている。
- ③ ショウブまつりなどに地域の方々の参加を働きかけるなど、積極的に地域交流を実施し、地域に根ざした施設づくりに取り組んでいる。

#### さらなる改善が望まれる点

- ① 精神科医師の巡回相談など、医療の連携について、さらなる一歩踏み込んだ支援が必要と思われる。
- ② 職員個々が希望する研修に参加できるような仕組みづくりを期待する。
- ③ 年次有給休暇取得のための組織的な解決策を講じることが期待される。

施設コメント：

しのばず荘と連携し「葛飾荘お仕事なんでも相談会」を開始。21回の相談会で15名が参加して8名が就労し、この相談しやすい環境が評価された。その他、アンケート調査での意向や希望等の把握、利用者懇談会で利用者の意見や要望の検討や改善の実施。住民やOB参加の行事も高い評価となった。

その一方、治療中断者や疾患の疑いある者に向けた精神科医師による巡回相談の必要性。職員が希望する研修への参加、年休取得の課題に対する改善への期待があった。